高知大学 病院ニュース

〔 編 集 〕
高知大学病院ニュース
編　集　委　員　会
委員長　井上　啓史
〔 発行人 〕
高知大学医学部附属病院
病院長　横山　彰仁

医学部総合防災訓練を行いました

会計課

11月10日（金）、医学部総合防災訓練を実施しました。
この訓練は、職種を問わず医学部で働く全ての職員を参加対象とし、
当日午後の外来診療を原則休診とさせていただいき、実施しております。
関係各位の多大なるご協力を得て、今回も実り多い訓練とすることができました。
厚くお礼申し上げます。

今回は、平日昼間の地震発生を想定し、災害対策本部立上げ等災害時の体制構築からトリアージ*1)実動までを組み込んだシナリオで行いました。

昨年度までは、訓練中に気付いたことを確認する機会は、次年度の訓練を待つ必要があり、そのため、当初の感想・印象が薄れることは否めませんでした。そこで、今回初めての試みとなりましたが、実動を2回実施しました。

以下アンケートの回答です。

- **1回目の反省点を2回目で改善することができた。**
- **2回目は、担当を交代することで、経験者を増やすことができた。**
- **口頭での情報伝達は情報量が多くなると整理が追い付かなくなることから、2回目はメモを活用しスムーズに行うことができた。**
- **リーダーからの指示がより端的になった。**
- **患者役への声掛けは短いが不安を取り除こうとするものであった。**
- **トリアージの各エリアでは患者受入れ動線・ベッド配置の変更等により患者の流れは良くなった。**
- **患者搬送担当者と搬送器具がもっと必要である。**

など、参加者からはおおむね肯定的評価を得ることができました。
これからも「災害に強い病院」であるため、実施方法を工夫しながら訓練を重ねていきますので、
今後ともご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

非常によくまとめられた
「時系列による記録『クロノロジー』」

実動に入る前には、全員での業務分担確認と
情報共有「チームビルディング」が必須

医学部の被害情報を収集・整理している
災害対策本部

トランシーバに
よる通信訓練
も実施

*1) トリアージ
災害時・非常時に、多数傷病者のそれぞれの緊急度や重症度を判定して治療や後方搬送の優先順位を決めること。

職場紹介

医療人育成支援センター

センター長　渡橋 和政

医療人育成支援センターは、学部教育からキャリア形成に至る医療人育成をシームレスに支援する目的で平成28年4月に開設されました。「臨床技能研修部門」「初期臨床研修部門」「キャリア形成支援部門」の3部門で構成され、これらを情報面で下支えする組織として本年5月に「医学教育IR室」が設置されました。

スタート直後、最大の関心事は新専門医制度でした。あいにく一年延期となり、今の2年目研修医が振り回された形となりましたが、不安を少しでも軽減するよう説明会で最新情報を提供し、新専門医制度についての情報や高知大学関連のプログラムなどの情報をホームページ等で提供してきました。高知大学では基本領域の19領域すべてでプログラムを作成し、のべ約150の連携施設、のべ約40の協力・特別連携施設とともに研修を行うこととなりました。

ここ数年、高知県内で初期研修を行う研修医数は50～60名と比較的安定し、初期研修修了後に大学を拠点としてキャリアを形成していく若手が増えつつありますが、新専門医制度が始まってどうなるかを注視する必要があります。初期臨床研修制度が導入された時と同様、全国どこにでもアプライできるシステムとなるため、以前発生した「県外流出組の浮浪化」が再び起こることを何とか防ぎたいものです。初期臨床研修医については高知医療再生機構の支援をいただきながら県全体で一致団結して実績を出してきましたが、専門医制度については大学病院の腕の見せどころとなります。

学部教育では、『医学教育の国際認証』の受審に向け、カリキュラムの大幅な見直しも含めた卒前教育の改編を準備中です。当センターでは、学生教育の段階から卒後の研修や専門医取得、キャリア形成についてしっかりと理解し、高いモチベーションをもって知識や技能を修得できる仕組みを作りたいと考えており、初期臨床研修医、若手医師、中堅の先生方にどんどん学生教育に参画して、いろいろな情報やメッセージを与えていただきたいと思っています。

新たに設置されたIR室では、医療人育成に関連して行われるさまざまな調査やアンケートなどの結果がそれぞれ単独で終息してしまうのではなく、それらを有機的に統合しながら分析し、よりよい教育・育成支援体制に向けて有効活用できるよう、保存形態もそろえて保管できる基盤を整備しつつあり、現在その第一歩としての調査を開始したところです。年を追うごとに、貴重な情報源となり、高知大学の教育・育成支援に大きな力となってくれることが期待されます。

このような活動を展開中ですので、今後ともご理解とご支援をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

医療人育成支援センターのロゴマーク

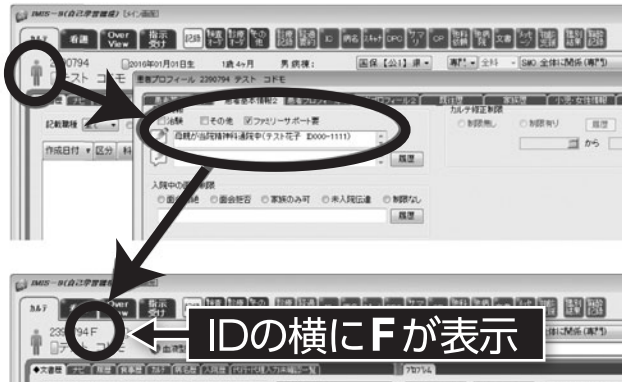
職場紹介

ファミリーサポートチーム

代表　藤枝 幹也

核家族化や少子化、高齢世帯の増加など、家族の力が低下する中で、医療だけでなく様々な生活支援を要する患者・家族が増加しています。また、精神疾患合併の妊産婦の出産が県内では当院に集中していることもあり、各診療科を横断的に支え、患者だけでなく家族全体をサポートする必要性が高まってきたことから、平成28年10月に従来の「高知大学医学部附属病院児童虐待及びドメスティックバイオレンス対策委員会」を「ファミリーサポート委員会」へと改組し、その下で実働を行う「ファミリーサポートチーム」が設置されました。当チームでは、法的にも医療機関に対応が求められている「高齢者虐待」「児童虐待」「障害者虐待」「ドメスティックバイオレンス」の4つの領域のこと全てを取り扱います。チーム発足以降、この1年間で38名の患者に対応を行っており、そのうちの何名かは継続的に係わり続けています。ケースのほとんどが「児童」「妊産婦」になりますが、老々介護といった厳しい状況から結果的に高齢者虐待に至ってしまうケースが、実際にはもっとたくさんあるのではないかと危惧しています。

私たちファミリーサポートチームには医師（小児科・法医学・産科婦人科・精神科等）、看護師、助産師、ソーシャルワーカーがいます。チームでは、各診療科と協力し、子育てや家族関係に難しさを抱えた症例の情報収集や、関係機関（各市町村、女性相談所、児童相談所等）との連携を行い、支援方法の検討や虐待の予防・早期発見に努めています。ただ虐待を通報するのではなく、未然に防げるような家族全体を支援する取り組みを行っていきたいと考えていますので、虐待とまでは言い切れなくても、少し気になるようなケースがありましたらまずは当チームにお声かけ下さい。また、実際に虐待等を疑うような症例がありましたら、各部署、各診察室に「高知大学医学部附属病院 DV・虐待対応マニュアル」の「対応フロー」を配付していますので、それに則って対応をお願い致します。いずれの場合も、地域医療連携室のソーシャルワーカーが窓口として動きますので、お気軽にソーシャルワーカーまでご一報ください。なお、「すでにファミリーサポートチームが介入している」「ファミリーサポートの観点から注意を要する」患者のカルテには、「F」マークが表示されるようになっています。（図参照）カルテを開いてこのマークがあった場合は、ぜひ経過記録を確認頂き、注意深く対応頂ければ幸いです。



現在のメンバー

［チーム連絡先］地域医療連携室　22130 / 22139

「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2017 高知」開催

病院機能強化戦略推進室　楠瀬 伴子

11月3日（金）12:00から4日（土）11:30の2日間にわたり、日本対がん協会、リレー・フォー・ライフ in 高知実行委員会主催の「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2017 高知」が、高知大学医学部グラウンドで開催されました。

今年の参加は40チーム1500人、2日間の延べ人数で2300人の参加がありました。高知大学医学部附属病院チームは34名の参加登録でしたが、他チームで参加している本院の医療職員も多く見かけました。高知大学としては他に、看護学科教員ズ・医学部学生のチーム参加がありました。

オープニングセレモニーでは、松浦喜美夫実行委員長の開会の言葉、垣添忠生日本対がん協会会長の主催者挨拶、本学の本家孝一医学部長と尾﨑正直高知県知事の挨拶の後、リレーウォークがスタートしました。にこやかに、元気に歩みを開始し、ステージでは、がん啓発の講演会・紙芝居・座談会など多くのイベントが実施され、ステージ前には多くの方が集まっていました。日没後は、会場の照明や音を消して、ルミナリエバッグ・「HOPE」の文字のキャンドルが燈るグラウンドを静かに歩きました。ルミナリエセレモニーでは、参加者全員が歩みを止め、がんで亡くなられた方々を追悼した後、リレーウォークは一晩中続けられました。ファイナルラップには、脇口宏高知大学長も参加しました。

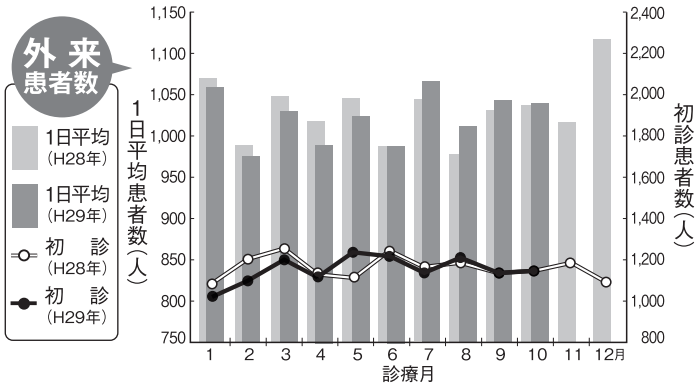
クロージングセレモニーでは、本院チームも24時間タスキを繋ぐことができたとして表彰状を頂きました。脇口学長から挨拶が行われ、本年も本院がサバイバー記念作品を頂きました。

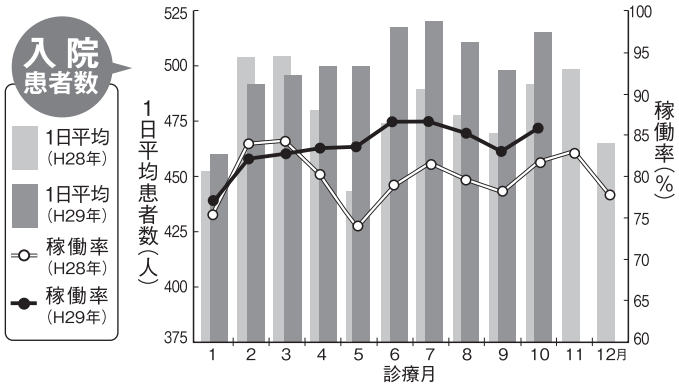
前日から会場となるグランド清掃、机や椅子の準備や片付けなど大変な作業でしたが、手伝いの学生さんたちの若いパワー、リレーウォークではサバイバーの方々から大きなパワーを頂きました。そして、チームテントに訪れて下さった方々と鍋を囲み、話に花が咲きました。がんばった以上に得られたものは大きかったと感じています。

ファイナルラップ（学長と共に）

ルミナリエバッグの点灯

診療状況





編集後記

本年度より、病院ニュース編集委員を仰せつかりました外科（一）の駄場中研です。これまで本誌を真面目に読んでいませんでしたが、高知大学医学部附属病院の今を伝え、未来に繋がる広報誌を目指される井上啓史委員長を少しでも手助けできればと思っております。

さて今回は「医学部総合防災訓練」についての報告、職場紹介として「医療人育成支援センター」について渡橋和政センター長より解説して頂き、さらに「ファミリーサポートチーム」を藤枝幹也代表からご紹介頂きました。特集記事として「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2017高知」を取り上げさせて頂きました。いずれも読者の皆様にご満足頂けるものと信じております。今後も最新ニュースを含め、楽しい話題を提供したいと考えております。みなさまの職場における新しい取り組み、今まで取り組んだすばらしい結果などを教えて頂ければ幸いです。宜しくお願いします。

（文責：駄場中 研）